11月20日収穫感謝合同礼拝説教（短縮版）

ヨハネ21：1～14　隅野徹牧師

いろいろ辛い思いをかかえ、苦しかった 弟子たちに「食事を整えてくださった」つまり「給仕してくださる」イエス様。「さあ、朝の食事をしましょう」と声をかけ、みんなで「温かい気持ちで」食事をすることができたことをこの聖書箇所は教えます。この出来事の後、しばらくしてイエス様は「天へ帰っていかれました」が、でも「天の上から」わたしたちを見守り、そして「いろんな方法を通して」私たちに必要な恵みを与えて下さっているのです。
神の子イエス様は「私達の今の生活を支えて下さる」のであります。

今日の箇所では、①弟子たちの食べ物の心配をされるイエスさまの姿が表れています。そして②、ただ心配されるだけでなく、湖の岸から具体的なアドバイスをするなど必要なサポートをされるイエスさまの姿が分かります。そして何より、自ら食べ物を用意され、火を起こされるなど、食卓を整えてくださった、自分中心ではなく、他の人のことを心から思って「給仕される」イエス様の姿が映し出されているのです。

これは弟子たちにだけ特別になされるのではありません。直接的な形ではありませんが、私たちがこの地上で生きていくために必要なものを整えてくださり、与えてくださっている、それが「人間となってこの世に来てくださった神の子イエス・キリスト」なのです。（終わり）